REPORT 1

「フェールラーベンナイト＆絶景トレック」

上市町のコラボ企画に潜入レポート

世界的な老舗ブランドが開催する体験型ツアー

「フェールラーベン」というブランドを知っていますか？ アルミ製フレームのザックを世界で初めて開発し、大ブームを巻き起こしたスウェーデン発のアウトドアブランドで、のちの「バックパッカーブーム」の礎を築いたブランドともいわれています。

「機能的であること」「丈夫で長持ち」「タイムレスなデザインであること」「信頼を裏切らないこと」「使い勝手がよいこと」「厳しい自然に立ち向かえること」。ストイックな企業理念を掲げたフェールラーベンは創業より多くのアウトドア製品を世に出してきました。〝北極ギツネのマークが入った、四角いリュック〟といえばわかる方も多いのではないでしょうか。

そんな世界的な老舗ブランド「フェールラーベン」、実は上市町ととても親密な関係にあったんです。というのも、フェールラーベン主催の旅行企画では上市町を目的地としたツアーが組まれていたり、上市町観光協会と協働でイベントを企画開催していたり。どうして上市町が選ばれたのか…気になりますよね。そこでフェールラーベンと上市町が2020年10月に行ったコラボ企画「フェールラーベンナイト＆絶景トレック」に潜入してきました。

室内と野外で2日間にわたり行われた地元参加型のデイ＆ナイトイベント。

初日は大岩山日石寺の門前旅館「大岩館」で「フェールラーベンナイト」が開催されました。内容は、フェールラーベンの田口裕子さんと池守隼輔さんがブランドの考えや取り組み、実際に体験した自社イベントの様子などを映像を元に紹介していくというもの。一方的にお話しされるものではなく、説明の途中には豪華景品が当たるクイズも出題され、参加者たちは俄然張り切って話を聞いている様子でした。

フェールラーベンにまつわるクイズは全部で4問。全問正解者は出なかったものの、出題後は正解数の多かった参加者たちから順番に、フェールラーベンのポーチや非売品キーホルダー、ウォレットなどの景品が提供されました。かくいう私は、まさかの全問不正解。それでも素敵なザックカバーをいただいたので満足極まりなかったです。

始終アットホームな雰囲気で行われたナイトイベント。終了後には参加者のみなさんもすっかりフェールラーベンの虜になったことは言うまでもありません。

2日目は、ふるさと剱親自然公園をスタート地点に、晩秋の千石城山を登る「絶景トレック」が行われ、総勢13名で約3時間のトレッキングを楽しみました。

「上市峰窓会」がガイド役となり、田口さんや池守さんとともに千石城山の山頂を目指します。この日はあいにくの曇り空でしたが、剱岳はうっすらと望むことができました。山草木や天然のきのこ、紅葉などを楽しみながら心地良い汗をかきつつ無事にゴールを果たしました。

自然の中で楽しみながら参加者との会話も大切に

お昼ごはんには「華生」の特別弁当が振る舞われ、トレッキングコースを振り返りながらお腹を満たしていきます。一つひとつ丁寧に作られたお弁当のおかずは、ほとんどが上市産の食材とのこと。竹皮で包まれた彩豊かなお弁当は、SNSで自慢したくなるほど美しく美味しいものでした。これを機に、華生さんにもいつか訪れてみたいな。

この後は上市駅へ移動し駅構内での販売会も実施されました。

とても濃密な時間を過ごせた2日間。この町が選ばれた理由が、何となくわかった気がします。企画を終えた池守さん、田口さん、上市町の印象はいかがでしたか？

地元の人がまだ気づいていない魅力がきっとあるはず

FJALLRAVEN
池守隼輔さん

「初めて来た上市町は、初めての感じがしない風景が広がっていました。近年サスティナブル志向が高まる中、60年前からフェールラーベンが取り組んできたことに世の中がようやく追いついてきたと感じています。流行っていないことをやり続けるかっこ良さをもっと伝えていけるといいですね。また最近はアウトドア商品が日常に使われることも多いですが、本来は自然の中で身につけることで機能を発揮するものなんです。商品の生地に山の空気を吸わせると、表情が変わってくるんですよ。私たちは商品の提供のみならず、しっかりと自然の空気を吸える機会も提供できればと考えています。」

FJALLRAVEN
田口裕子さん

「3年前に上市町を紹介してもらったのが、このまちを知ったきっかけです。まちなかを案内してもらううちに『フェールラーベンでツアーを組んでみたら楽しいのでは』という考えに至りました。これまでに県外の人を対象としたツアーを3回行ってきたのですが、今回は地元の方向けにアレンジした企画です。地元の人がまだ気付いていない魅力を発掘できる内容をこれからも模索していきたいですね。上市町は、なぜかホッとする場所。上市町に多くのフェールラーベンファンを作っていけるといいなと思います。」